

平成28年度 学校評価一覽表

島根県立瀬摩高等学校

評 価 計 画					自 己 評 価						学校関係者評価	改善計画	
中期目標	短期目標	主分掌	達成の方策	評価指標	アンケート						結果と課題の説明	評価	改善案
					目標値%	教職員	生徒	保護者	平均	評価			
確かな学力を育む	教職員の授業力向上	教務	互見授業や研究授業、授業力向上の研修 中高連携を通して授業力向上に努める	授業参観、研究授業、研修の機会を積極的に活用し授業力向上に努めた割合	80	82	67	60	70	B	従来、授業公開の機会が本校では少なく、今年度その機会が増えたことに生徒の中には戸惑いもあったようだ。	B	互見授業の形式を整備し、実施することができたので今後も継続し授業力向上に向けた取り組みが定着することが重要である。生徒に対しての授業評価アンケートを実施し授業改善に努める。
	ユニバーサルデザインを取り入れた授業の実践	教務	独自の授業規律で、生徒がわかりやすい授業を行う。	全ての授業で統一のルールにより授業が実施されていると感じている割合。	80	81	75	63	73	B	保護者に対してUDについて理解してもらうには情報発信が足りなかった。また、生徒に対してもアンケートを通して授業ルールの確認が不足していた。	B	教職員の81%という結果も不十分であるので、年度初めの異動後改めて本校での取り組みを確認する必要がある。生徒に対してはアンケートを定期的実施し、本校での取り組みが定着するようにする。保護者に対しては、授業公開をはじめとし、学年PTAなどの機会にUDを取り入れた授業展開を紹介していく。
「志」「夢」「未来」を見つけてさせる	キャリア教育の充実	進路	社会的・職業的自立に必要な態度を育成する。 キャリアを積み上げていく上で必要な知識等を理解させる。	社会で求められる人物育成のための指導に満足している割合	80	73	77	71	74	B	キャリア教育とは何か、学校行事等がキャリア発達を促し、またキャリア教育が教科・科目と関連付けられていると周知されず理解されていないため目標値に達することができなかった。	B	インターンシップや瀬摩高フェアなどの行事がキャリア教育の一環であることを、生徒に対しては「進路設計」「銀の哲学」などの教科・科目で意識づけるための指導をおこなう。保護者に対しては、学校ではどのようにキャリア教育を展開しているかを保護者説明会などを通して周知していく努力をする。
	人権意識、規範意識を高める	保健 (特別支援)	特別支援を必要とする生徒に対し、個に応じた自立活動・支援を実施する。	特別支援を必要とする生徒に対して適切な支援ができたと感じている割合。	80	88	0	0	88	A	羅針盤授業や一斉授業の工夫、学年会や分掌間の連携等の校内連携をはじめ、外部支援機関と連携を取りながら、学校全体で特別支援教育に取り組んだため高い評価であったと考える。今年度は特に、3年生の進路決定の場面で、学年会や進路指導部との連携や役割分担の必要性を感じた。	A	3年間のモデル事業から見てきた課題を整理し、4年次の活動につなげる。そして、羅針盤授業と教科、校務分掌間で情報共有し、よりつながりのある支援としたい。
		生徒指導 (規範意識)	いじめ防止や生活の安全に関する講話の充実をはかる。	講話等による効果の割合	80	68	74	47	63	C	規範意識の定着を期してネットモラルや防犯に関する講演会を実施した。生徒は熱心に耳を傾け要点を理解しており、注意喚起の目的はある程度達成したと考える。しかしそこでの情報が家庭に持ち帰ってからの話題とはなっておらず、生徒同士でも講演会後の意識定着は十分ではない。得られた知識や情報をいかに家庭と共有し、講演の効果を持続させるかが課題である。	C	外部講師によって受ける刺激は大きく、様々な情報を得て思考するきっかけになっているので、引き続き良質な講演会ができるよう、講師の選考等に努める。また、家庭でも話題にしてより理解を深めることができるように、保護者への事前案内や事後報告など、情報発信の手立てを講じる。
		図書 (人権教育)	人権・同和教育LHR及び、教職員研修、人権同和教育だよりを充実する。	アンケートで肯定的意見を教職員90%以上、生徒80%以上、保護者70%以上を達成する。	80	66	65	50	60	C	今年度は推進計画を一新して臨んだ年度であった。今年度新たに保護者評価が加わり、「保護者だより」などとしたが、意識として浸透せず、全体の目標値に届かなかった。人権・同和教育LHRは一部の学年の実施が遅れ、評価の時期に間に合わなかった。教職員研修(セクハラ・パワハラ研修)も12月に実施され、評価に結び付かなかった。	C	教職員研修は内容そして実施時期について検討する。「保護者だより」についても内容・時期そして掲載方法について検討する。掲載方法としては「進路だより」・「学年だより」などにも入れて頂くなどして保護者に連絡していくこともよい方法だと考える。LHRについては特に評価時期に間に合うような実施時期について検討し、アピールしたい。またその内容について更に検討していく。
		生徒主体活動の推進	生徒指導	部活動、生徒会、委員会活動への参加機会をつくる。	諸活動において充実感を持つ生徒の割合。	80	76	72	69	72	B	諸活動において生徒の意見を聞き取る機会は増えたと考える。結果として、出された意見が反映した場合とそうでないものとの件数差はある。対応が困難な内容の意見に対して、十分な説明がなされたとは言えない。地域活動やボランティア活動への気運が生徒の中で高まっていると考えられるが、諸条件を整理した上で可能な場合は実施できるよう、活動環境を整える必要がある。	B
家庭と地域との連携強化	総務	保護者、地域の視点を取り入れた魅力化に向けた取り組みを実施する	魅力化的な取り組みをしていると感じている割合	80	81	63	73	72	B	魅力化に向けた取り組みが、保護者、地域へ徐々に浸透してきているが、主体である生徒自身がその取り組みの意義について理解できていなかった。	B	魅力化に向けた取り組みが、生徒自身にとって何を目的としてなされているのか、また、それが保護者、地域にとってどのような意義があるか意識して取り組めるようにしていきたい。そのために、一つ一つの取り組みの前には、主体である生徒がその取り組みの意義について理解を深める時間を十分に確保する。	
保護者や地域と共に創る学校	中高連携事業の促進	教務	大田西中学校との中高連携事業を推進し、相互の協力関係を強化する。	大田西中学校との連携に取り組んだ割合	80	30	0	0	30	E	アンケートの質問文がYes/No疑問文であり適切ではなかった。	D	アンケート質問文を工夫し、中高連携に向けての取り組みが段階的に自己評価できるものにする。大田西中学校に限定せず、中高連携の機会をより多く紹介、提供できるよう努める。
	中学生への情報提供の充実	総務	アンバサダー事業訪問を計画的に実施する。 瀬摩高通信に、学校生活情報を組み入れる	アンバサダー事業、瀬摩高通信が計画的にかつ有効な情報提供となった割合。	80	83	63	76	74	B	瀬摩高通信を活用した情報提供は計画的にできていたが、アンバサダー事業による情報提供が不足していた。また、外部への情報提供に併せ、内部に対する情報提供が不足していた。	B	大田市教育委員会と連携し、市内小中学校へ向けてアンバサダー事業のPRをしていく。瀬摩高通信を校内にも掲示し、外部に対する情報提供だけでなく、校内に向けての情報提供にも努める。
	大田市との連携を強化する	総務	魅力化コーディネーターと連携し、魅力化へ向けての取り組みを検討する	魅力化へ向けての取り組みを検討することができた割合	80	79	0	0	79	B	魅力化コーディネーターとは、まだお互いに試行錯誤による連携しか取れていないが、魅力化へ向けての取り組みを検討することはできた。	B	魅力化コーディネーターとの連携を強化していくために、お互いの役割を明確化し、検討した取り組みをスムーズに実践していけるよう互いにサポートしていく。また、地域・保護者と学校との間における橋渡しの役割としての位置を確立し、コーディネーターが動きやすい環境を整える。
	銀の哲学を充実させる	総務・進路	地域の要望に応え、各系列の特色を活かした瀬摩高フェアを生徒主体で開催する	地域の要望に応え、生徒主体の瀬摩高フェアを実施できた割合	80	87	87	88	87	A	瀬摩高フェアも回数を重ねることに生徒が主体的に活動するようになってきている。また、地域における認知度も高くなってきているが、系列間における考え方の違い、マンネリ化がでてきているように感じる。	A	それぞれのフェアに取り組む前には、総合的な学習の時間「銀の哲学」における瀬摩高フェアの目的について、教員間、生徒間でお互いに確認する機会を設定する。前年度、前回の各フェアごとのアンケートなどを活用し、PDCAすることでマンネリ化を防ぐ。

効率的で安心・安全な学校づくり	安全で整美された学習環境づくり	保健	年2回（7・2月）に校内安全点検を実施する。	学校の環境美化が充実していると感じている割合	80	63	79	78	73	B	校内安全点検については定期的を実施し、事務部に修繕対応していただいた。清掃活動については、教職員と生徒の評価差があり、教職員はより一層生徒の熱心な取り組みを期待している。時間いっぱい清掃に取り組んでいないという指摘もあった。適摩高サミット(1月)では、生徒の中から「清掃にもっとまじめに取り組んだ方が良い」という意見も出ており、生徒間の感じ方に差があることもわかった。	B	生徒の意識向上を目標に、保健委員会の活動として環境美化や清掃活動を啓発するような活動を行いたい。また、熱心に清掃に取り組む生徒を評価するシステムを作りたい。	
			生徒保健委員による清掃状況チェック											
	学習情報センター機能の充実	図書	図書館だよりの月1回の発行、掲示案内の工夫、図書委員会の活性化	図書館機能が充実していると感じている割合	80	61	63	54	59	C	図書館の多面的な利用を目標に学習情報センター機能の充実を掲げた。今年度は面接読書週間がなくなり、相対的に教職員・生徒共に関わりが少なくなった感否めない。しかし、7月読書感想文指導、10月新聞学習の取組、NSファイル、本の寄付、図書館イベントなどの図書委員会活動も強化したところである。また保護者評価が今年度から加わったことも新しい点である。保護者を意識して「図書館だよりの」も出したが、生徒共に浸透するには課題が残った。	C	・多くの目標を掲げるよりしぼった方が良いと思われる。教職員への質問内容も学習センターとしては良いが、情報センターとしては予算にも限界がある。地道な活動が求められる。図書部の活動を知ってもらい、浸透させることが大切と思う。例えば、「図書館だよりの」をホームページに掲載する。行事で図書館を控室として利用する。保護者からも古本を収集する。保護者から本のリクエストを聞く、学校広報誌・「学年だよりの」へ情報を掲載する、など実施を検討する。	
丁寧な来客対応・適切な予算執行	事務	丁寧な来客対応、電話対応を行う。	来客や電話の際、対応が良かったと感じている割合	80		0	79			A	教職員からは目標を上回る評価だったが、保護者からは、電話対応への不満の声があった。	A	・接遇の基本を事務部で再確認し、来客や電話に対する丁寧な対応に心がけ、不適切な対応事案が発生時には、問題共有及び改善策検討をし、実践する。	
		教職員と連携した予算執行をする。	事務処理に満足している割合		85	0								
寮運営	寮務	定期試験期間中の学習時間の確保を特に徹底させる。	寮生が良好な成績（全教科60点以上）を修めていると感じている割合。	80	83	0	0	83	A	定期試験期間中の学習状況は良好であったが、評価点が60点を下回った科目も見られたので、平素の学習時間をできるだけ確保させることが課題である。	A	定期試験期間中の学習に取り組む姿勢は良好であったので、平素の学習時間（1時間）をできるだけ確保できるように粘り強く取り組ませたい。また、進路の面からも、学習することの意義をさらに高めていきたい。		
総合学科の魅力UP	体験活動を充実させた授業を展開する	系列	地域資源を活用した授業を実施する。	地域資源を活用した体験学習がおこなわれていると感じる割合	80	84	58	58	66	B	教職員の結果では高評価であったが、生徒・保護者では低い評価となった。これは系列による取り組み内容に大きな差があったからだと考えられる。系列による学習内容に違いがあり、地域連携や地域交流、地域資源を活かすべく、授業へ反映できなかった。	B	生徒と保護者が体験活動が充実していると感じられるように、各系列で授業内容を見直し、地域資源を活用した授業内容や実験・実習・演習など体験的活動を多く取り入れる。また、特に1～2年生を対象とした授業で地域連携にも積極的に取り組み、地域と共にある適摩高校のイメージUPに繋げていく。	
	学習内容の満足度	系列	生徒が興味関心を持てる授業展開をする。	系列の学習内容に満足している割合	80	84	75	73	77	B	系列の学びに対する満足度は概ね高評価であったが、不満を持っている生徒が3割程度いる系列もある。計画的な授業展開や生徒の興味関心を引き出せる学習内容を行う必要がある。	B	授業で学ぶ目的「何のために学んでいるのか」「何を学んでいるのか」をきちんと伝え、学習内容に対する意味を意識させる。そして、学びに対する興味関心を高め、充実感を味わえる授業を展開していく。教員は、生徒がどのような内容に興味が高いか理解する必要があり、地域資源をうまく活用した授業展開を目指す。	
	学年会による指導の充実	各学年会	1年	面談・個別指導による生徒の関心や適性の把握	教員による指導や面談に満足している割合	80	75	70	78	74	B	生徒増とともに多様な特性・背景のある生徒が増え、通常の面談時間すら確保しにくい状況ながらも担任を中心に時間を捻出し、生徒や保護者、関係機関への細やかな対応に努めたが、生徒の評価がやや低く出た。引き続き生徒の様子を注視しながら状況を把握し、「落ち着いた学校生活」を送るための方策を立てることが今後の課題である。また、生徒の情報交換については学年会を越えた様々な方から声掛け・協力をいただき、生徒の指導に活かすことが出来た。	B	年度内は「仲間づくり」「ルールの共有」を二本柱とし、生徒を評価し内的成長を促しながら「落ち着いた学校生活」に近づけるべく取組みを継続して行っていく（1月：自己・学級目標の設定 人権・同和教育LHR 2月：分教室との部活動交流 3月：自己目標の評価・再設定 など）。目指す生徒像が生徒と教員間でずれないように、伝え方に留意していく。生徒の「もう少しで2年生になる」「後輩が出来る」という意識を刺激する一方で、卒業生の系列別進路情報を適宜提供するなどし、生徒自らの進路意識の醸成を図り、今後の学校生活へのビジョンを持たせる。
			教員同士の連携による密な情報交換											
2年			学習環境を整備し進路実現に向けた基礎学力向上を意識させる。	学年会による指導内容に満足している割合	80	78	66	73	72	B	・物品の管理・ロッカー上の整理・教科書の持ち帰り等漸進的に改善され、後半の学習環境は整いつつあった。漢字テスト等にも前向きな姿勢が伺えた。教科書の持ち帰り等、教員サイドからの声掛けで動くのではなく、何の為にそうようにするかを見直し、自主的に動く習慣を身に付けさせたい。 ・一人ひとりに積極的にアプローチ出来た。自分だけでは不十分と思われる部分については、他の教員の協力を得て補うことが出来た。3年生への進路実現に向けては、生徒個々の気持ちや変化について3クラスで情報共有出来る体制をつくっていく。	B	・学年集会等の場面で、生徒たちが話し合い考えて、意見を言ったり発表したり出来る設定をする。3年生をスタートするときの意識づけを大切に。 ・3クラスにおける現状報告やケース会議が出来る機会を数多く設定できるよう努力する。	
3年	個別面談等、個に対応した指導支援を充実させる	学年会による指導に満足している割合	80	79	75	77	77	B	最高学年にふさわしい生活態度で、学校全体をリードする積極性を持ち、活気と節度を兼ね備えた学校生活を送ることを目標に、機を捉えた学年集会・学年終礼を重ねて実行してきた。また、担任を中心として、手厚く面談等の個人指導をし、分掌や系列の協力も得ながら、個々の生徒の希望・資質・適性に応じた進路実現その他の指導・支援を行ってきた。これらの取り組みを通し、情報提供・指導支援の質や量に満足した生徒保護者は多くいたと考える。しかし、個の特性に応じた粘り強い指導にも関わらずこれが徹底せず、結果として服装・態度に改善の余地を残したままの者もあり、課題として残った。	B	今年度同様、日頃からの観察・面談を通した生徒理解に努め、個々に応じた指導助言を行っていくと同時に、節目節目での全体指導も続けたい。課題となった部分は、特に進路決定後に顕著であったので、平素から分掌・系列・教科と連携した多くの場面の指導を徹底すると同時に、進路決定後も目的意識を持たせる等の指導に力を注ぐことが必要である。			
各種学年集会等を通した全体指導を充実させる														
適摩高校満足度			教職員一丸となり魅力ある学校づくりを推進する。	適摩高校に満足している割合	80	70	74	76	74	B	7割以上の生徒・保護者が満足しているが、学習内容や人権意識の指導、図書館運営など評価が低い項目も見受けられる。教員の熱意や情報伝達が不十分であり満足度が8割に届かなかった。	B	学校からの情報伝達方法の見直しや全系列で体験的学習を多く取り入れ充実した学習環境を築く。また、生徒一人一人を大切に、個人への指導体制も充実させていく。	

【算出方法】
5:とてもあてはまる(5点) 4:概ねあてはまる(4点) 3:あまりあてはまらない(2点)
2:あてはまらない(1点) 1:わからない(カウントなし)とし、「1」と答えた人以外の人数の合計点と回答人数によって算出

【評価基準】
A:達成できた(100～80) B:概ね達成できた(79～65) C:あまり達成できなかった(64～40) D:ほとんど達成できなかった(39～35) E:達成できなかった(34～)